

認知症の理解

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 稲田 弘子

■使用テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会（編）
「新・介護福祉士養成講座第12巻 認知症の理解 第3版」中央法規出版 2016

◆参考テキスト 日本認知症ケア学会編「改訂・認知症ケアの基礎第2版」株式会社ワールドプランニング

講義概要・一般目標

認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。その上で、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響、つまり、認知症における中核症状と周辺症状について理解し、個々に合ったケアが提供できるための知識、さらに地域で生活している認知症の人とその家族を支援するための体制のあり方やその具体的な取り組み方法について理解する。

認知症のある人が、尊厳を持ち人生を継続していくためには、支援にあたる人たちの認知症の病気の理解や日常生活への影響の理解、それらを緩和するための介護のあり方について理解することが重要となる。

到達目標

- 1) 認知症の基本的な知識について説明できる。
- 2) 認知症に伴うこころの変化について説明できる。
- 3) 認知症のケアのあり方について説明できる。
- 4) 認知症予防について説明できる。
- 5) 認知症の人を介護している家族の心理や社会的支援について説明できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 認知症の人の体験の理解

この章のポイント

認知症の人は、日々の生活においてどのようなことを体験し、それをどのように感じているのでしょうか。「認知症になったら何もわからなくなる」ではありません。認知症の介護は、まずは認知症の人の心理・体験を知ることから始まります。認知症本人がどのように感じているのか、その思いを学びます。

第2章 認知症を取り巻く状況

この章のポイント

認知症のケアは大きく変わろうとしています。本章ではこれまでの認知症ケアの歴史を振り返り、これからどのような理念をもってケアを創造していけばよいのかを考えます。また、その時々で主流となっていた認知症ケアの理念や視点、療法などについても解説し、認知症ケアの潮流を学びます。

第3章 認知症の人の医学・行動・心理的理解

この章のポイント

近年、認知症をめぐる医学的研究は急速に発展しています。そうした最近の知見を含め、ケアするにあたって、おさえておきたい医学的知識について学びます。

また、認知症の人の行動には「理由」があります。「問題行動」としてとらえるのではなく、なぜそのような行動をするのか、どのような心理状態にあるのかなど、その理由を探るための基礎となる知識を学びます。

第4章 認知症の人の生活理解

この章のポイント

認知症は生活のさまざまな場面に影響を与えます。その影響を理解し、認知症の人が、生活を続けるためにどのような環境を整えればいいのか、また、環境を活かしたかかわり方をどのように提供すべきかを学びます。

第5章 認知症に人に対する介護

この章のポイント

認知症のステージに応じた介護のあり方について、暮らす場による違いを含めながら、介護するときどのようにケアしていけばよいのか等、かかわり方を学びます。

第6章 地域の力を生かす

この章のポイント

認知症の人が「その人らしく暮らす」ためには、さまざまな地域資源を活かしていく視点が重要となります。地域におけるサポート体制、多職種、多資源協働のチームアプローチの具体的な内容を通して「どのように支援すれば認知症の人を地域で支えていけるのか」を学びます。

第7章 家族の力を生かす

この章のポイント

認知症の利用者を介護している家族は、「ケアする存在」から、「ともにケアする存在」へと変わりつつあります。介護している家族の心理状態を理解し、そのうえでどのような介護負担があるのかを理解し、家族を含めた「地域」とどう協働すればよいのかを学びます。

第8章 認知症に関する制度・関係機関など

この章のポイント

近年、認知症を取り巻く制度は大きく変わり、関係機関とのかかわりも増えています。

本章では、介護保険の施行以前から、現在までの、国や自治体における認知症対策の展開と内容を理解することで、実際の現場でのケアを支える制度的枠組みのあり方を学びます。